

win・winの関係の構築に向けて

東成総括施設長 林 祥子

花冷えの日が続いた平成28年度の幕開けでしたが、その影響か恒例の大阪城お花見ハイクでは例年になく桜が残り、木々にも足元にも桜色が広がる気持ちのよい一日を過ごすことができました。



今年度も引き続き東成総括施設長を拝命し、事業所本体の活動と大阪市から委託されている東成区障がい者相談支援センターの運営を進めてまいります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度は昭和62年の開所以来初めてとなる外壁塗装を行い、28年ぶりにお化粧直しを施しました。住宅街の一角で場所が分かりにくく、道中の案内をすることが多かった東成育成園ですが、訪れる方への目印になるよう裏壁面に大きく施設名を書き入れたことも今回の改修工事の目玉でした。これに続き、今年度は内装工事にも着手し、明るく快適な環境で過ごしていただけるよう取り組んでいきたいと考えています。

先日、ある講演で耳にした言葉・・・《福祉》とは《ふだんの ぐらしの しあわせ》とのこと・・・誰もが幸福感を感じることができるように。また、お互いが尊敬しあえる社会であるように。福祉に携わる者として改めて基本に立ち返り、身が引き締まる思いでした。奇しくも4月から【障害者差別解消法】が施行されています。障がいのあるなしに関わらず、皆さんが気持ちよく暮らせる街づくりに東成育成園も東成区障がい者相談支援センターも尽力していきたいと思っております。

施設は地域の中にあり、地域とともにその存在がなければいけないと感じております。利用者、ご家族、スタッフそして地域や各関係機関の皆さんとも協力し合える関係。互いの協働によりそれぞれが豊かさを感じることができる～win・winの関係～が築けるよう、日々邁進していく所存でございます。今年度もどうぞ変わらぬご指導ならびにご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

新たな一歩を

港総括施設長 角森 佐岐子

今年度も港エリアの総括施設長を務めさせていただくことになりました。よろしく申し上げます。



今年の春は、うらかな日差しの中、昨年度塗り替えた施設の外壁の緑色がまぶしく映え、いつもにも増して明るく力強いエネルギーを感じています。

港エリアでは、港育成園、港第二育成園、ワークスいけじまの3つの施設で4事業を実施し、グループホームも9か所運営しています。4月現在で利用者総数は132名にも上ります。加えて、居宅介護事業と就労相談事業もあり、地域拠点としての役割の重さに身が引き締まる思いです。

《障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように》の法人理念の下、職員は日々奮闘していますが、利用者のニーズの変化や制度の改正にはなかなかついていけないのが現状です。私のような古いタイプの人間には大変な時代だとつくづく感じる今日この頃です。

港エリアの施設では利用者の減少が大きな課題になっています。利用希望者がいない時代が来るなどは思ってもいないことでした。措置制度が終わった時から『選ばれる施設』を目指してサービスを組み立ててきたはずでしたが、目の前の利用者だけを見続けたことで世の中の変化に気づいていなかったのだと思います。正に『木を見て森を見ず』です。

かつて先輩から、「木を見て森を見ずという諺があるが、君たち支援者はひたすら木を見続けなさい」と言われたことがありとても印象深く、利用者に寄り添い続けることが大切なのだと心に刻みました。今でもそれは間違っていないと思いながら、これまでは5年の有効期限があったことで、次のステップに送り出す使命と新たなニーズを持った利用者との出会いが、知らず知らずのうちに世の中の流れを学ぶ機会になっていたのだということに改めて気付きました。少々遅くて申し訳ありませんが・・・

気付いたからには行動を始めなければなりません。幸いにも各事業所の管理者は問題意識を明確に持ち、改善に向けての意欲を見せてくれています。連携することで、各事業所の特色が明確になり相乗効果を生み、より魅力ある事業展開も夢ではありません。

